

2017年、第1版

発疹： あなたが知っておく べきこと

 Children's Hospital
of Philadelphia®
Vaccine Education Center



目次

前書き	3
発疹だ！対応法は？	4
水虫	5
水痘(みずぼうそう)	6
接触性皮膚炎	7
コクサッキーウイルス(手足口病)	8
湿疹	9
伝染性紅斑(りんご病、第5病)	10
あせも	11
じんましん	
蕁麻疹	12
のうかしん	
膿痂疹	13
川崎病	14
麻しん	15
伝染性軟属腫(みずいぼ)	16
たむし	17
突発性発疹	18
風しん	19
かいせん	
疥癬	20
しょうこうねつ	
猩紅熱	21
带状疱疹	22
天然痘	23
家族の発疹歴	24
医師への詳細説明	27
メモ	28

前書き

体のどんな部分でも同様ですが、皮膚も、発疹を引き起こす感染症など、様々な疾患にかかることがあります。発疹は、他の症状を伴う場合と伴わない場合があり、その診断が難しいことがあります。発疹の根本的な原因を解明することは厄介な場合がありますが、発疹は非常に一般的で、特に小児においてはなおのことです。

発疹の多くは、医学的な介入なしに自然に回復します。しかし、発疹によっては伝染性があったり、より重篤な疾患の一症状であったりする可能性があるため、ご自身またはお子さんの発疹が悪化している場合、特に発熱や他の症状が伴う場合は、医療提供者に連絡してください。

このガイドは、医療専門家によるアドバイスの代わりとなるようには意図されていません。しかし、当ガイドが特定の発疹についての一般的な質問のいくつかに答えを提供し、ご家族の方に治療を要する発疹が生じた際に、手引きとして役立てていただくことができれば幸いです。

発疹についての基本的な情報の提供に加え、当ガイドには、種々の一般的な発疹と、一般的ではないものの、非常に深刻な発疹についても大まかに説明してあります。このハンドブック巻末には、2つの有用なワークシートを用意しました。最初のもは発疹歴の記録に、2番目のものは診断に役に立ち得る情報の収集に役立てることができます。

発疹だ！対処法は？

全ての発疹に治療が必要とは限りませんが、どのような時に医療を求めるべきかを判断することが重要です。

時々、新たなアレルゲンが皮膚に触れた際に発疹が出る場合があります。アレルギー性発疹の一般的な原因の例として、ツタウルシ、有毒オークはもとより、新しい香料さえも含まれます。さらに、膿疱疹、手足口病、伝染性軟属腫(みずいぼ)、たむしなどの一部の感染症は、感染した皮膚に触れた際に伝染します。したがって、感染源への新規暴露や感染者との接触の可能性があれば、用意されたワークシートにその旨を記入することを忘れないようにしてください。

ご自身やお子さんが呼吸困難に陥ったり、症状が急激に悪化したりした場合は、直ちに治療を受けてください。発熱、倦怠感、全身症状または長期症状が認められる場合は、医療提供者に連絡してください。発疹に排膿や出血が伴う場合も、医療提供者に連絡してください。個々の傷口自体が細菌感染を引き起こし、合併症またはより重度の疾患を引き起こします。発疹性疾患の原因を判定する際に医療提供者の助けとなり得る症状や他の詳細を記録するために、当ガイドの最後にあるワークシートを使用してください。

発疹には様々な原因があるため、治療方法も異なる場合があります。発疹によってはほとんど対処しなくても回復するものもありますが、完治するためにクリーム、軟膏または内服薬を必要とする発疹もあります。発疹の種類によっては、お子さんへの適切なワクチン接種を徹底することによって防ぐことが可能です。

水虫

原因:かび(真菌)



説明:

水虫の発疹は赤色でうろこ状になります。足指の間に見られることが一般的ですが、足の裏やふちに広がることもあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 靴下や靴を脱ぐ際の激しい痒み
- ・ 慢性的に乾燥したうろこ状の皮膚

蔓延のしくみ:

感染者の発疹との接触、またはロッカールームの床やジムなどの汚染した物や場所との接触

予防方法:

プールやロッカールームなど、感染しやすいことが分かっている場所では、履物を使用する。靴やタオルなどの個人用品を共有しない。足を乾燥した状態に維持する。足に汗をかいた場合は、定期的に靴下を履き替え、日常的に2足以上の靴を交互に履く。

発疹の持続期間:

治療すれば1週間未満。無治療の場合は数か月間～数年間

水痘(みずぼうそう)

原因:ウイルス



説明:

数日間にわたり水疱がまとまって出現します。典型的には、水疱は初めに顔や胸に出現し、外側に向かって腕と脚へ拡がります。個々の水疱には痒みがあり、痛みを伴うことがあります。水疱はいくつかの段階を経て進行し、最初は赤く、皮膚に対して平らで、次に赤い部分が隆起し、その後、水ぶくれになってその周りが赤い状態になります。最後には破裂し、かさぶたになります。予防接種を受けていなかった場合、感染期間中、250～500個の水疱ができるのが普通ですが、接種歴があれば水疱の数は大幅に少なくなります。

予期すべき他の症状:

- ・ 発熱
- ・ 倦怠感

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫

発疹の持続期間:

約5～10日間

予防方法:

1歳頃のワクチン予防接種と4～6歳における再接種

接触性皮膚炎

原因:アレルギー反応



説明:

接触性皮膚炎による発疹は、赤色で乾燥し、皮膚が盛り上るのが一般的です。個々の腫れは線状であったり、葉が皮膚全体に触れたことにより幾何学的パターンになったりすることもあります。発疹は多くの場合、痒みがあり、水疱を伴うこともあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 発疹部位周辺の痒み

蔓延のしくみ:

人から人へは伝播しない。アレルギーへの暴露が原因。

発疹の持続期間:

最長1か月間

予防方法:

アレルギーを特定し、除去する。

コクサッキーウイルス (手足口病)

原因:ウイルス



説明:

小さな赤い斑点が、口の後ろに向かって出現し始めることが多いです。発疹が広がる約1〜2日間、赤い斑点は平坦または隆起することもあります。発疹は、手掌または足底に出現することが最も多いですが、膝、肘、臀部または陰部などの他の部位にも出現することがあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 発熱(普通、発疹が出る前)
- ・ 飲食困難(口腔内のできものによる)。食欲不振
- ・ 咽頭痛

発疹の持続期間:

約1週間

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫や汚染物との接触

予防方法:

日常のおもちゃの清掃と消毒。手洗いなど、適切な衛生慣行の実践。キス、ハグ、食器の共有など、感染者との濃厚接触を避ける。

湿疹

原因:アレルギー反応



説明:

湿疹は、うろこ状、ピンク色の、やや隆起した斑状で、痒みを伴う発疹を引き起こす。

予期すべき他の症状:

- ・ 発疹部位周辺の痒み

発疹の持続期間:

断続的に出現し、持続期間は様々

蔓延のしくみ:

人から人へは伝播しない。定期的に悪化する遺伝的な疾患

予防方法:

肌に優しい非石鹼系の洗剤を使用する。日常的に皮膚を保湿する。香料、洗剤、化学薬品、喫煙などのストレス要因を最小限にする。

伝染性紅斑(りんご病、第5病)

原因:ウイルス



説明:

この赤くて痒い発疹は普通、顔から始まり、胸、背中、臀部または四肢まで広がる場合があります。程度の差はありますが発疹は数週間にわたって目につくようになり、消失の過程でレース模様を呈するようになることがあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 発熱
- ・ 鼻水
- ・ 頭痛
- ・ 関節の痛みと腫れ
(成人において、より一般的)

発疹の持続期間:

約7~10日間

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫

予防方法:

適切な手指衛生慣行と、咳やくしゃみをする際のエチケットの実践。眼、鼻、口に触れない。発症者との接触を避け、自身が発症者である場合は、他の人から離れる。この種の感染者は、発疹出現の1~2日前の風邪のような症状を呈する際に最も伝染性が高い。

あせも

原因:アレルギー反応



説明:

あせもは、にきび様の赤色またはピンク色の吹き出物として出現します。発疹は痒みを伴うことがあり、肘、首、鼠径部、胸の下など皮膚同士が密着する部分にできる傾向があります。

予期すべき他の症状:

- ・ なし

発疹の持続期間:

約3~4日間

蔓延のしくみ:

人から人へは伝播しない。高温など特定の環境条件に対する反応が原因となる

予防方法:

特に温暖な気候の場合は、天候に合わせて適切な服を着る。皮膚をひんやりと乾燥した状態に維持する。

じんましん 蕁麻疹

原因:アレルギー反応



説明:

様々な大きさの淡い赤色の隆起が、突然いくつも出現し、各々が結合して広範囲の皮膚を覆うことがあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 眼、唇、手足または陰部の周囲の腫れ
- ・ 呼吸困難につながる喉、舌または肺の腫れ

これは医学的緊急事態です。
即座に治療を受けること。

発疹の持続期間:

様々-1日から数週間

蔓延のしくみ:

人から人へは伝播しない。アレルギー反応を原因とする

予防方法:

アレルゲンを特定し、避ける。

喉、舌または肺の腫れは医学的緊急事態です。
即座に治療を受けること！

のうかしん 膿痂疹

原因:細菌



説明:

膿痂疹は2つの形態の内いずれかに該当することがあります。1つは、小さな赤い吹き出物、または膿が出て蜂蜜色のかさぶたとなる赤色の発疹が特徴です。もう1つは、容易に破れて、顔、胴体、四肢を含む領域に拡がりやすい水疱が特徴です。患部は痒みを伴うことが多いです。感染は患部の大きさによって様々です。

予期すべき他の症状:

- ・ 発疹部位の痒み

発疹の持続期間:

無治療の場合は2~3週間。治療をすれば2~3日間

蔓延のしくみ:

細菌が切り傷や創部に侵入した時に発症する。

予防方法:

切り傷、擦り傷、虫刺され痕などを
含む創部を洗浄し覆う。

川崎病

原因:不明



説明:
発疹は赤色で腫れを伴い、多くの場合、体幹と陰部に生じます。一部の例では、手掌や足底に生じます。疾患の進行に伴い、手足の皮膚が大きな塊となって剥がれ落ちることがよくあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 5日間以上持続する高熱
- ・ 手足、口、唇、喉の腫れ
- ・ 赤く、炎症を起こした眼、唇
- ・ リンパ腺の腫れ
- ・ 関節痛(病気後期)
- ・ 嘔吐、下痢(病気後期)
- ・ 心臓に血液を供給する動脈に影響することもある

発疹の持続期間:

数週間

蔓延のしくみ:

不明。ただし人から人へは伝播しない

予防方法:

不明

麻疹

原因:ウイルス

説明:

コプリック斑と呼ばれる、青みを帯びた中心部を伴う小さな白い斑点が、頬の裏側、口蓋、唇の内側に生じます。1～2日後には、赤い発疹が頭髮の生え際から出現し、体幹に拡がり、その後、約3～4日間で腕と脚に拡がります。

予期すべき他の症状:

- ・ 高熱
- ・ 倦怠感。活力低下
- ・ 白眼の充血を伴う涙眼
- ・ 咳
- ・ 肺炎
- ・ 脳炎(脳の感染症)

発疹の持続期間:

口腔内のコプリック斑は、3～4日間持続する。体の発疹は約1週間持続する

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫

予防方法:

1歳でのワクチン予防接種と4～6歳頃での再接種



伝染性軟属腫 (みずいぼ)

原因:ウイルス



説明:

小さな白色、ピンク色または肌色の腫れは、通常は中央にくぼみを伴います。固く、滑らかで無痛であるのが普通ですが、感染後期には腫れて赤くなり、痛みを伴う場合があります。

予期すべき他の症状:

・なし

発疹の持続期間:

約6～24か月間

蔓延のしくみ:

発疹や汚染物との接触

予防方法:

適切な手指衛生慣行の実践。ただれた部分との接触を避ける。タオルのような個人の日常身の回り品を共有しない。

たむし

原因:かび(真菌)



説明:

ほとんどの場合、肌色の中心部の外側に赤い輪が形成されます。発疹は、身体のどこにでも発生し、亀裂や水疱を伴うことがある、うろこ状の隆起した表面が特徴です。

予期すべき他の症状:

- ・発疹部位の脱毛
- ・感染部位の爪が肥厚し、変色することがある。

発疹の持続期間:

治療をすれば約1か月間

蔓延のしくみ:

感染した人や動物、または汚染された衣類や個人の日常身の回り品との接触

予防方法:

感染創との接触を避ける。タオルのような個人の日常身の回り品を共有しない。ジム、プール、ロッカールームなど、リスクの高い場所では、足を常に覆っておく。

突発性発疹

原因:ウイルス



説明:

小さなピンク色のやや盛り上がった腫れが、通常は胸から始まり、顔、腕、脚に広がります。

予期すべき他の症状:

- ・ 3～5日間持続する高熱
- ・ 解熱した時に、発疹が出現

発疹の持続期間:

約1～3日間

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫

予防方法:

感染者との接触を避ける。

風しん

原因:ウイルス



説明:

3人のうち約2人のみに発疹が出ますが、発疹が出た人は、赤い発疹が顔と首から始まり、体の残りの部分に広がる傾向があります。

予期すべき他の症状:

- ・ 耳の後のリンパ腺腫脹
- ・ 微熱
- ・ 倦怠感。活力低下
- ・ 白眼の充血

発疹の持続期間:

約1～3日間

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫

予防方法:

1歳でのワクチン予防接種と4～6歳での再接種

疥癬(かいせん)

原因: 寄生虫



説明:

激しい痒みを伴う小さな吹き出物や腫れです。発疹は、全身に出現する可能性があります。肘、脇、手首、手掌、足底、腰、指の間、陰部、乳頭、臀部など、皮膚同士が密着する部分に出現する傾向があります。

予期すべき他の症状:

- ・ 特に夜間に生じる激しい痒み
- ・ 皮膚表面の堀跡(疥癬トンネル)が、灰白色または肌色の線として目立つことがある

発疹の持続期間:

発疹は、体にダニが侵入している期間中、残存する。個々のダニは、人体において1~2か月間、生存可能

蔓延のしくみ:

感染者との密接な接触。時には、汚染された衣類、タオルまたは寝具との接触を介する

予防方法:

適切な衛生慣行の実践。感染した皮膚との接触を避ける。

猩紅熱(しょうこうねつ)

原因: 細菌



説明:

この発疹は、赤い肌からサンドペーパー様の細い腫れに進行し、最終的には患部の皮膚が剥離します。患部にある皮膚のしわは、その周囲の皮膚よりも鮮明な赤みを帯びる傾向があります。もっとも一般的には、発疹は首、脇そして鼠径部に生じます。

予期すべき他の症状:

- ・ 発熱
- ・ 咽頭痛、咽頭発赤
- ・ 悪寒
- ・ 嘔吐、腹痛
- ・ 舌の白苔
- ・ 舌上の赤いぶつぶつ(イチゴ舌と呼ばれることがある)
- ・ 頭痛
- ・ 体の痛み
- ・ リンパ腺の腫れ

発疹の持続期間:

約1週間。発疹に続く皮膚剥離は最長6週間持続することがある

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中への細菌飛沫

予防方法:

適切な手指衛生慣行の実践。食器、リネン、タオルのような個人の日常身の回り品の共有を避ける。感染者との接触を避ける。

带状疱疹

原因:ウイルス



説明:

この赤い発疹は通常、眼の近く、または腰の周辺など、神経に沿ってかたまって出現します。

予期すべき他の症状:

- ・ 多くの場合、長期間持続する、神経に沿った激しい痛み。持続的または断続的であることもある
- ・ 疼痛部位における激しい痒み

発疹の持続期間:

約1週間から10日間

蔓延のしくみ:

带状疱疹は、以前に感染した水痘ウイルスの再活性化である。带状疱疹の患者から带状疱疹をうつされることはないが、以前に水痘の既往がない場合は、带状疱疹の患者から水痘をうつされることはありえる。

予防方法:

60歳での単回の带状疱疹ワクチン接種。現在検討されている新しいワクチンは2回の接種が必要となる見込み。

天然痘

原因:ウイルス



説明:

この盛り上がった隆起状の発疹は普通、口腔内から出現し、顔と腕、その後、最終的に脚と体幹に広がります。腫れは手掌と足底にも生じることがあります。

予期すべき他の症状:

- ・ 高熱
- ・ 活力低下。衰弱、倦怠感
- ・ 頭痛
- ・ 腰痛

発疹の持続期間:

約6日間にわたり進行

蔓延のしくみ:

咳やくしゃみなどによる空気中へのウイルス飛沫

予防方法:

天然痘ワクチンのおかげで、天然痘は地球上から排除された。この疾患がバイオテロ行為により社会に改めて放出された場合は、ワクチン接種が再開されるだろう。しかし、ワクチンは副反応の確率が高いため、ワクチン接種の利益は、現時点ではリスクを上回っていない。

家族の発疹歴

家族の発疹歴を記録するために、この表を使用してください。

名前: _____ 生年月日: _____

発症日	治癒日	診断	治療	担当医	コメント

名前: _____ 生年月日: _____

発症日	治癒日	診断	治療	担当医	コメント

家族の発疹歴

名前: _____ 生年月日: _____

発症日	治癒日	診断	治療	担当医	コメント

名前: _____ 生年月日: _____

発症日	治癒日	診断	治療	担当医	コメント

家族の発疹歴

名前: _____ 生年月日: _____

発症日	治癒日	診断	治療	担当医	コメント

名前: _____ 生年月日: _____

発症日	治癒日	診断	治療	担当医	コメント

医師への詳細説明

一見したところ大したことのない些細な点が、診断の際に医療提供者の手助けとなることがあります。したがって、次の点を観察し、記録してください。

最初に発疹に気付かれたのはいつですか？

最初にどのようにして発疹に気付かれましたか？

体のどの部分に生じましたか？

どんな発疹ですか？

発疹から何か(血液、膿)出ていますか？

発疹は、痒みがあったり、広がったり、または出現後に何らかの変化がありましたか？

現在または発疹が出現するまでの数日間に、他の症状(発熱、痛み、過敏性など)はありますか？

以前にも発症者にこのタイプの発疹が出たことがありますか？

同様の発疹または他の症状を持つ誰かに、発症者が暴露されたことがありますか？

発疹:あなたが知っておくべきことは、発疹の原因となることがよくある疾患について基本的な情報を提供し、その経過の理解と、医療提供者との問診に役立ちます。このガイドは、医療専門家による具体的な医療アドバイスや治療に取って代わることを意図するものではありません。

この情報は、Children's Hospital of Philadelphiaの皮膚科との共同制作により、Vaccine Education Centerによって執筆・作成されました。VECはワクチンとそれらが予防する疾患について正確、包括的かつ最新の情報を提供するために2000年10月に創設されました。

Vaccine Education CenterはChildren's Hospital of Philadelphiaの基金教授陣によって資金提供されています。当センターはワクチン製薬会社からの援助を受けていません。

その他の情報は、以下をご覧ください

発疹:vaccine.chop.edu/rashes

ワクチン:vaccine.chop.edu

CHOP皮膚科:www.chop.edu/centers-programs/dermatology

水虫、伝染性紅斑(りんご病、第5病)、あせも、川崎病、突発性発疹、風しん、疥癬、猩紅熱の画像は、VisualDxからの許可を得て掲載しています。

Children's Hospital of Philadelphia
34th Street and Civic Center Boulevard, Philadelphia, PA 19104-4399
1-800-TRY-CHOP www.chop.edu